

平成20年4月から

特定健診 特定保健指導が始まります 洞爺湖町の健康の実態

健診は、症状が出る前に体の中で起きていること確認できる大切な機会です！年に1回、自分の健康チェックをしましょう。

住民課国保医療係 ☎ 74-3002 / 健康福祉課健康福祉センター ☎ 76-4006

11月号では、来年4月から始まる「特定健診」「特定保健指導」が、どのような内容なのかを掲載しました。

医療制度改革により来年4月から、メタボリックシンドロームに着目した特定健診と特定保健指導を導入し、糖尿病など生活習慣病を予防することで、健康的な生活の支援と将来の医療費の伸びを抑え、住民の負担を減らし、国民皆保険制度を持続可能にすることが、今回の「特定健診」「特定保健指導」の目的です。

11月号にも掲載しましたが、洞爺湖町の国民健康保険の一人当たりの医療費は全国・全道平均に比べ高く、心疾患・脳血管疾患で亡くなる方の割合も全国・全道に比して高い水準になっています。若い世代から心疾患・脳血管疾患で亡くなる方も見られ、深刻な状況です。

“1人でも多くの方に健診を受けていただきたい、自分の身体のことを知っていただきたい”と考え、今月号と来月号の2回にわたり、私たちの町が抱える健康の実態をお伝えします。



洞爺湖町の平均寿命はどのくらいでしょう？

健康状態がもっとも損なわれた状態が「死亡」ですが、洞爺湖町民の平均寿命は全道平均に比べて低い傾向にあります。

合併前の平成12年の統計では、男性全道平均77歳に対して、旧虻田町は76歳、旧洞爺村が77歳。女性全道平均84歳に対して、旧虻田町83歳、旧洞爺村86歳となっています。

死亡統計を見ると、がん、心疾患、脳血管疾患で亡くなる比率が、全国・全道に比べ高く、特に心疾患の死亡の発生は全国・全道の倍以上になっています。中でも女性の心疾患が多く、全道でも上位にあります。

過去5年間の虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症など）と脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）の死亡状況を年齢別に見ると、働き盛りの40代からの脳血管疾患、50代から虚血性心疾患が増えはじめ、特に男性で亡くなる方が目立ちます。

どのような病気で治療している方が多いのでしょうか？

平成18年5月の国保加入者の治療状況を調べてみました。

高血圧や糖尿病、心疾患、脳血管疾患など生活習慣病で治療されている方は、国保加入者4,915人中2,167人、全体の44%でした。1カ月の医療費用額で見ると、生活習慣病の占める割合は全体の73%に及んでいました。生活習慣病を予防することは、みなさんの健康的な生活を維持し、結果として医療費の伸びを大きく抑制できることにつながります。

疾患別の割合では、高血圧で治療されている方が最も多く、次に高脂血症（コレステロールや中性脂肪の高い方）また糖尿病で治療されている方も30%を占めています。若い世代から糖尿病で治療されている方や、糖尿病に心疾患や脳血管疾患、人工透析を併せ持って治療されている方も見られました。

糖尿病は始め特別な症状はありませんが、重症化すると知らないうちに身体の中で血管が傷つけられ、心疾患や脳血管疾患などの命にかかわる病気を発症する危険があります。

どの生活習慣病もそうですが、かかりつけの先生に相談して、進まないように適切な治療を継続して受けることが大切です。

損なわれてしまった健康を取り戻すには時間がかかります。定期的な通院は生活や仕事にも影響を及ぼし、治療費などの負担も大きくなります。健診を受けて気になる値があったら、重大な疾患になる前に生活を振り返って見ましょう。その時が病気を予防するチャンスです。

